

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公印省略)

平成23年度病害虫発生予報第9号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量
カンキツ	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等)	やや多
	ミカンハダニ	やや少
カキ	フジコナカイガラムシ	並
	カキノヘタムシガ	並
ブロッコリー	黒腐病	やや多
	花蕾腐敗病	やや多
	べと病	並
	菌核病	やや多
レタス	灰色かび病	並
	菌核病	やや多
	腐敗病	やや多
	斑点細菌病	並
	モザイク病 (えそ輪紋症状含む)	やや多
	ナモグリバエ	やや少
野菜、花きの 共通害虫	アブラムシ類	やや少
	コナガ	やや少
	タバコガ類 (タバコガ、オオタバコガ)	やや少

太文字の病害虫：向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病害虫を示す。

* 予報根拠中の記号

(+)：発生量を多くする要因

(-)：発生量を少なくする要因

(±)：発生量が平年並になる要因

平成23年度 病虫害発生予報 第9号 (12月)

A. 果樹の病虫害

－カンキツ－

1. カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等)

予 想 発生量 : **やや多**

根 拠 秋期のヤノネカイガラムシの発生量はやや多く、ナシマルカイガラムシの発生は認めなかった。(＋)

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除を必ず実施する。
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

2. ミカンハダニ

予 想 発生量 : やや少

根 拠 (1) 11月下旬の発生量はやや少なかった。(－)
(2) 12月の気象は、平年と比べて気温が並、降水量が並か多い予報である。(－)

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除を必ず実施する。
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

－カ キー

1. フジコナカイガラムシ

予 想 発生量 : 並

根 拠 秋期の発生量は平年並であった。(±)

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除と1月から2月に粗皮削りを実施する。
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。

2. カキノヘタムシガ

予 想 発生量 : 並

根 拠 秋期の発生量は平年並であった。(±)

- 対 策 越冬期の密度を下げるため、1月から2月に粗皮削りを実施する。

B. 野菜、花きの病虫害

－ブロッコリー－

1. 黒腐病

予 想 発生量 : **やや多**

根 拠 (1) 11月下旬の発生量は年内どりではやや多く、年明けどりでは平年並であった。(＋)

(2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(＋)

- 対 策 (1) 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。
(2) 降雨や強風の後にはできるだけ速やかに薬剤防除を行う。
(3) 発生が多い圃場では発蕾までに防除を徹底する。

2. 花蕾腐敗病

- 予 想 発生量 : **やや多**
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生は認めなかった。(±)
(2) 12月の前半は気温の変動が大きく、12月10~16日はかなり低くなる予報である。(＋)
- 対 策 (1) 降霜などによって発病が助長されるので、低温が予想される場合には防霜対策を施す。
(2) 黒腐病の防除など細菌病防除を行う。
(3) 薬剤防除は予防的に実施し、銅剤を使用する場合には発蕾期以降の散布はさける。

3. ベと病

- 予 想 発生量 : 並
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は年内どおりおよび年明けどりとともにやや少なかった。(－)
(2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。
(2) 降雨後や曇雨天で多湿状態が続くときは薬剤防除を行う。
(3) 花蕾の発病を回避するため、発蕾前に予防的に薬剤を散布する。
(4) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。
(5) 被害残さは放置せずに抜き取り適正に処分する。

4. 菌核病

- 予 想 発生量 : **やや多**
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は年内どおりではやや多く、年明けどりで発生を認めなかった。(＋)
(2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って適正に処分する。
(2) 発生の多い圃場には連作しない。

－レタス－

1. 灰色かび病

- 予 想 発生量 : 並
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は年内どおりでは平年並、年明けどりでやや少なかった。(－)
(2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って処分し、直ちに薬剤防除する。
(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。
(3) 定植7~10日後と25~35日後を基幹防除時期とするが、トンネル被覆後は薬剤がかかりにくくなるので、散布むらに注意して薬剤を散布する。
(4) 苗床からの持ち込みを防ぐため、苗床での薬剤防除を実施する。
(5) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 菌核病

- 予 想 発生量 : **やや多**
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は、年内どおりではやや少、年明けどりで平年並であった。(±)
(2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って処分し、直ちに薬剤防除する。
(2) 圃場の排水をよくするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。

- (3) 定植30日前後が防除適期であるが、トンネル被覆後は薬剤がかかりにくくなるので、散布むらに注意して薬剤を散布する。
- (4) 灰色かび病の耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 腐敗病

- 予 想 発生量 : **やや多**
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生は、年内どり、年明けどりとともに発生は認めなかった。(±)
 (2) 12月の前半は気温の変動が大きく、12月10~16日はかなり低くなる予報である。(+)
- 対 策 (1) 圃場の排水をよくするとともに、トンネル内部が過湿にならないようにする。
 (2) 凍霜害にあった後は速やかに薬剤散布を行う。

4. 斑点細菌病

- 予 想 発生量 : 並
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は、年内どりではやや少、年明けどりで発生は認めなかった。(－)
 (2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(+)
- 対 策 (1) 育苗は風当りの少ないところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。
 (2) 圃場の排水をよくするとともに、トンネル内部が過湿にならないようにする。
 (3) 強風を伴う降雨が続いた後及びトンネル被覆前には薬剤防除を行う。

5. モザイク病 (えそ輪紋症状を含む)

- 予 想 発生量 : **やや多**
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は、年内どりではやや多く、年明けどりで発生を認めなかった。(+)
 (2) 11月下旬のアブラムシ類の発生量は、年内どり、年明けどりとともにやや少なかった。(－)
 (3) 12月の前半は気温の変動が大きく、12月10~16日はかなり低くなる予報である。(+)
- 対 策 (1) 今後低温になると、えそ輪紋症状が多発する可能性があるため、苗床及び被覆前のアブラムシ防除を徹底する。
 (2) 発病株は、早期に抜き取り適正に処分する。
 (3) 定植時には粒剤を施用する。
 (4) アブラムシ類の薬剤防除を行う場合には、抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

6. ナモグリバエ

- 予 想 発生量 : やや少
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は年内どりではやや少なく、年明けどりで発生を認めなかった。(－)
 (2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(－)
- 対 策 (1) 苗床は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。
 (2) 葉に食害を認める場合は、被覆前に防除を行う。

－野菜、花きの共通害虫－

1. アブラムシ類

- 予 想 対象作物 : 野菜、花き類全般
 発生量 : やや少
- 根 拠 (1) 11月下旬の発生量は、ブロッコリーでやや多く、レタス及び冬ニンジンではやや少なかった。(±)
 (2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(－)

- 対 策 (1) 施設栽培やトンネル栽培等では、今後増殖するおそれがあるので注意する。
 (2) モザイク病の初期感染を防ぐため、苗床での防除を徹底する。
 (3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. コナガ

予 想 対象作物： アブラナ科野菜、ストック等
 発生量： やや少

- 根 拠 (1) 年内どり及び年明けどりブロッコリーでの11月下旬の発生量はやや少なかった。(－)
 (2) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(－)

- 対 策 (1) 育苗期の苗は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。
 (2) 定植時に粒剤を施用するとともに発生初期から薬剤防除を行う。
 (3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. タバコガ類 (タバコガ、オオタバコガ)

予 想 対象作物： レタス、キク、ナス、ミニトマト、トマト
 等のトンネル及び施設栽培
 発生量： やや少

- 根 拠 (1) 年内どり及び年明けどりレタスでは発生を認めなかった。(－)
 (2) 丸亀市飯山町の10～11月のフェロモントラップ誘殺数は、オオタバコガでやや多く、タバコガで平年並であった。(＋)
 (3) 12月の気象は、平年と比較して気温が並、降水量が並か多い予報である。(－)

- 対 策 (1) 幼虫は、作物の果実や生長点付近の茎葉、花蕾に潜り込んで加害するので、その周辺を中心に幼虫を探して、見つけ次第捕殺する。
 (2) 被害果実、被害茎葉、収穫残さなどは放置せず圃場外へ持ち出して適正に処分する。
 (3) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
 (4) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が高い場合があるので、早期発見に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を行う。

農薬の取り扱いには、充分注意しましょう！

【中毒110番・一般向け】

つくば 029-852-9999 (365日対応、午前9時～午後9時)

大 阪 072-727-2499 (365日24時間対応)

財団法人日本中毒情報センター <http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf>

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

【事務所移転のお知らせ】

病害虫防除所は、農業試験場の移転に伴い10月1日から次のとおり事務所を移転しました。

住所 〒761-2306 香川県綾歌郡綾川町北1534-1

TEL 087-814-7317 FAX 087-814-7318

URL: <http://www.jpnpn.ne.jp/kagawa/>

メールアドレス: byogaichubojou@pref.kagawa.lg.jp